

素晴らしい卒業式だった

2月26日の卒業式は立派だった。卒業生の態度は、在校生の見本とするに余りある素晴らしい姿勢だった。在校生の君たちも立派だった。今後はそれを超えられるよう、日々の積み重ねを大切に、それぞれの集大成の1年後・2年後の卒業式を迎えてほしい。式場の準備、撤収に当たってくれた1年生の生徒の皆さん、1年生の見本となるべく立派に卒業式に臨んでくれた2年生の生徒の皆さん、そして、先生方に感謝の気持ちでいっぱいだ。ありがとう。感動する場面で感動できる学校文化を築いていきたい。

3年生の学年通信「軌跡K I S E K I」に寄せた文章を全生徒向けに若干修正して改めて掲載する。

『丁寧に生きる、感謝と笑顔と。』

「あなたの命はあなただけのものではない。

人類誕生以来のたくさんの命の出会いの結果、今こうしてあなたに預けられている。そして、育ててくれる人がいて、食べ物という他者の命をいただいて、様々な経験をさせていただいて、今のあなたの命がある。様々な命の中で、奇跡的にこれまで大切に育まれてきた。

今のあなたの命は、果たすべき使命があるから今そこにある。

使命とは『命を使う』と書き、生きる役目と言い換えてもいい。生きるということは、その使命を探す道のりだ。生まれた場所や境遇など所与のものを経糸（たていと）に、出会うヒト・モノ・コトを緯糸（よこいと）にして織り上げる織物だ。緯糸の幅、厚みが大きくなれば、その織物の幅、厚みも増す。その織物は、誰かを包んでその心を癒したり、励ましたりするものになる。

どこかで誰かが待っている。どこなのか、誰なのか、いつなのかはわからない。しかし必ず待っている人がいる。それを探すのが果たすべき使命であり、生きる役目なのだ。

自分にはそれがはっきりわからないかもしれない。しかし必ず待っている人がいる。あなたの命は、これから果たすべき使命があるから今そこにある。

人に何かをしてあげることは、巡り巡って結局は自分のためになる。自分のためではなく、人のためにやったことが最終的に自分に返ってくるのだ。『情けは人の為ならず』ともいう。

そして、過去は及ばず、未来は知れず、いま正しいと思うことに全力で取り組む。それが果たすべき使命につながる。

挑戦は上手くいけば自信になり、失敗しても糧になる。今日一日の積み重ねが明日になり、明日の積み重ねが未来につながる。

『丁寧に生きる、感謝と笑顔と。』君たちから教わった。」

感じる事が少しでもあれば幸いだ。

挨拶で感動した

2月24日、学校評議員会といって、本校に関係の深い地域の方や同窓会、本校の前校長先生をお招きして、本校の取組とそれに対する我々の評価の適性を評価していただく会議を開催した。

その際に委員の方々から口々に述べられたことは、「挨拶ができて驚いたり、嬉しかったりした」ということだった。ある委員の方が当日来られた際に、「校門のところで私のような見ず知らずの人間に気持ちの良い挨拶をしてくれた生徒さんがいて感動した」と仰ってくださった。挨拶で人を感動させることができるって、すごいことだと思わないか？

日々当たり前でできていないとなかなかできないことが、そうやって自然とできることは、生徒の皆さんの間で「挨拶日本一」が定着してきつつあるということで、私も嬉しい。そして私は「挨拶日本一の高校、遅刻ゼロの高校に私たちはなる」とあちこちでPRしている。これからその真価が問われる。

立つ鳥跡を濁さず

卒業式の後の1階のトイレの下駄は、その日もきれいに揃っていた。

We keep on trying. 挨拶日本一の高校・遅刻ゼロの高校に私たちはなる 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩